



2014/11/26

第189話 歯周病と糖尿病

歯茎が赤くはれる、歯茎から出血するなどの症状は歯周病のサインです。一方で、のどが渇く、足がつる、体がだるいなどは糖尿病特有の症状となります。この2つの病気はお互いを悪化させ、病気を進行させることも珍しくありません。

歯周病はどんな病気

歯周病とは、歯周組織が歯垢（プラーク）に含まれている歯周病菌に感染し、歯肉（歯茎）が腫れたり、出血したり、最終的には歯が抜けてしまう病気です。周病の初期では自覚症状がほとんどないので気付いていない方が多くだけで、実際には日本人の成人の約80%が歯周病にかかっているといわれています。

糖尿病で歯周病が増える理由

歯周病を防ぐために、唾液には口の中を浄化したり組織を修復する働きがあります。糖尿病の高血糖状態では、尿がたくさん出ることによって、体内の水分とともに唾液の分泌量が減り、喉や口の渇きという症状が現れます。

高血糖のために口の中が乾燥している時は、唾液の修復作用が低下していて、歯周病の原因菌が繁殖しやすく、進行しやすい環境になっていると考えられます。

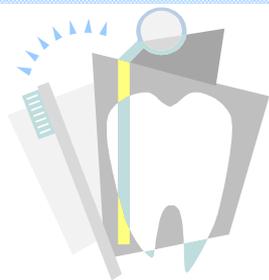
歯周病が糖尿病を悪化させる理由

歯周病が進行し、歯周病菌がたまってくると白血球が攻撃するために集まります。その白血球が放出する物質は、血糖値をコントロールするインスリンを作りにくくする働きがあり、その結果糖尿病が一気に進むことがあります。

悪循環を断ち切るためには

この悪循環を断ち切るために重要なのは、早いうちに歯周病に気がつくことです。歯科医院などでプラークや歯石を取り除いてもらい健康な歯を取り戻しましょう。歯周病を合併した糖尿病の患者に歯周病治療をしたところ、血糖値が改善した例もあります。

歯の健康状態を確認しよう！



歯科健診（無料）についてはこちらから

DENTAL  歯科健診センター
CHECK UP CENTER

歯医者のみをお探しの方はこちら

